船橋よみうり新聞　2017年2月4日　2面

「ゴカイ」に近縁種

東邦大・阿部さんの研究チームが発見

干潟などに生息し、釣りエサに用いられる「ゴカイ」。そのゴカイの一種である「ドロオニスピオ」の中に、「アミメオニスピオ」という、異なる種が含まれていたことを東邦大理学部の阿部博和さん（＝写真・31）らの研究チームが明らかにした。

以前から、東北大でゴカイの幼生を研究していた阿部さん。親と子で遺伝子が一致しないものがあることに気づき、研究を進めてきた。卵からふ化したあと、長いプランクトンの時期があるアミメオニスピオに対し、ドロオニスピオにはほとんどそれがない。阿部さんは「こんなことがあるのか。今までなぜ気づかなかったのか」と驚いている。

ゴカイの仲間の分類はまだ不十分で、解明されていないことも多いと阿部さん。「同じような事例がまだあるはず」と新たな発見に意欲を見せる。今後は両種の生態的違いや役割などについて追求していきたいと話している。

※船橋よみうり新聞社へ転載許諾済、無断転載禁止